

県の追加補正で各種支援・慰労金が実現



県議会6議会閉会

渡辺ゆり子県議



県議会
6月定例会は7月3日、全
ての議案

クリル板・換気装置設置、消毒液購入などが対象経費で4月7日まで遡及可能となっており、約15000件を見込んでいます。

児童関係施設職員にも慰労金

を原案通り議決して閉会しました。新型コロナウイルス対応の追加補正が会期中2度も提案され、合わせると予算規模も約570億円と異例のものになりました。

医療機関、社会福祉施設、児童関係施設などの職員に20万円から5万円の慰労金として約58億円(約10万人が対象)が計上されました。児童関係施設の慰労金5万円は、県独自の施策で保育所、幼稚園、学童保育、児童養護施設などを想定し、約13000人が対象です。

が、本会議で議案に対する質疑を行いました。補正予算の特徴的な項目を上げると以下ようになります。

事業者支援

中小企業・小規模事業者が新・生活様式に対応する店舗の改修や設備を導入する経費に対する支援で、約21億円の予算となっています。その中の「ガイドライン対応型」は、補助率10/10で補助額上限20万円を県と市町村で負担し、ア

6月21日山形市議団と街宣



2020年7月20日 IV-16

◇発行◇
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅: 山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

民間医療機関への支援

国の二次補正では、コロナ患者を受け入れた病院に対する一定の予算措置はされましたが、それ以外の医療機関への財政支援はありませんでした。議会最終日の3日に、県は民間の病院に50万円、診療所やクリニック、歯科医院などに30万円の支援金を独自に計上しました。

私は、議案に対する質疑の中でコロナ感染の影響を受け、医療機関の多くが減収となっていること、病院の夏季一時金削減が生まれている実態も示して、独自支援は県民の要望に応えるものと表明し、どのように実態を認識し、提案となったのか質しました。

吉村知事は、医療機関が県民の命と健康を守るために医療活動を継続していることに敬意を表明し、経営実態調査と財源の裏付けを踏まえ、医療崩壊を防ぐために支援金を給付すると答弁しました。

※その他、大学生等への支

ゆり子の視点

国の政策転換こそ

女性たちの会話(国の交付金)、結局このコロナ禍でいきです。「コロナ対策 局は借金なんですよ。弱肉強食の新自由まじよ、国の対策がア 国の税金の無駄遣 主義の誤りが明らか。

ベノマスクや給付いはやめてほしい。かになってきまじ金など遅れるしパツ イージスアショア た。「国民の命や暮らしを守り、社会体の長が頑張つて、沖縄の米軍基地を充実させるるね。県も独自の 地建設やアメリカ政治を」の思いを 予算を出したし」からの武器の爆買ともに語り合い、 「でも、このお金 いなんて必要ない」つくっ



県衛生研究所の体制強化を!

厚生環境常任委員会 7月1日の厚生環境常任委員会、PCR検査を担った県衛生研究所について取り上げました。

県衛生研は「インフルエンザB型山形系統分離」という世界的研究成果を上げた歴史を持ち、地道なコロナウイルス研究の取り組みから今般もコロナウイルスに関連して問い合わせがあるとのこと。しかし、職員数は30人(2007年)から24人(2019年)に削減され、医師数も減らされています。

国立感染症研究所に実地疫学の専門家の研修コース



6月24日県商工団体連合会県要請「コロナで減収の全事業者に支援を」